



(一財)自治体国際化協会理事長  
岡本 保

## 地域の国際化において クレアに求められる役割

新明解国語辞典（第6版）によると、国際化とは「自国本位の排他的・独善的な態度を捨て、互いに異質性を認め合いながら他国と共存する世界にすること。」とされている。

「国」を「人」に読み換えればわかりやすいが、「国際化」は毎日の我々の生活において心掛けていかなければ進まないものであるが、「人」でもなかなか努力がいるが、「人」の集合である「国」においては、さらに幾多の取り組みが必要であることは、歴史が示すとおりである。

クレアは、地域という単位を基本として、この国際化の日々の取り組みを進めること、それをサポートすることをミッションとしている。

外国人青年を招致するJETプログラムは、これまで63か国から5万8千人を超える参加者が、小・中・高校における外国語指導助手（ALT）として全国各地で毎日活動しており、子どもたちの国際化の取り組みとしては最たるものであろう。また、外国からの参加者にとっても、日本の文化、日本人の考え方を知る良い機会であり、プログラム終了後も地域に留まり引き続き地域の種々の活動に貢献される方、また、帰国後に現地で日本の取り組みを支援いただく方などもおられ、国際化の大きな財産になっている。

地方自治体の海外の都市との姉妹提携数は平成25年度末には1661件になっている。地域同士の草の根交流は、交流している地域の国際化はもとより、良好な二国間関係が築かれるための礎として非常に意義あるものである。

また、現在日本には200万人を超える在留外国人の方々が活動しておられるが、これらの定住外国人の方々と多文化共生の取り組みも各地域で積極的に展開されている。地域の国際化への熱意・想いの高まりに応え、クレアはミッションの達成に向け、さらに努力を続けていかなければならない。

4月の当協会的一般財団法人移行と同時に理事長に就任したが、地方自治体の皆様のニーズの把握に努め、職員の皆さんとともに、汗をかき、知恵をだして決意も新たに地域の国際化に取り組んでまいりたい。

引き続き変わらぬ御理解、御支援をお願いしたい。